

# イラン人カトリック司祭、デイヴィッド ベンジャミン ケルダ ニ

5.0

明:ユニエ ト カルデア宗派のロ マ カトリック教会司祭がイスラ ムへ改宗した。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 者と宗教的 威](#)

より: IPCI

ED7 Jun 2010

集日 07 Jun 2010

いかにイスラ ムへ改宗したのかと われ、彼はこう答えました:

“私のイスラ ムへの改宗の原因は、全能者アッラ による慈悲深きお き以外のいかなるものでもない。この神的 きを きにしては、真理を求めるあらゆる学 、探求などの努力をしても道に迷ってしまうだろう。私が神の完全なる唯一性を信じるようになったその瞬 から、かれの なる使徒ムハンマドは私の品行と振る舞いにおける模 となったのである。”

アブドル=アハド ダ ウ ドは、神学士デイヴィッド ベンジャミン ケルダ ニ として、ユニエ ト カルデア派ロ マ カトリック教会の司祭を めていました。彼は1867年、ペルシャのオル ミ イエに生まれ、幼少 代にその町で教育を受けました。彼はオル ミ イエで1886年からの3年 、カンタベリ 大司教によるアッシリア 方教会（ネストリウス派）への使 で教として きました。そして1892年、ヴォ ン枢 卿によりロ マへ派遣されると、プロパガンダ フィデ神学校（Propaganda Fide

College）で哲学と神学の学位を取得し、1895年には司祭として任命されました。その

、彼はカトリック 刊 The Tabletへ “Assyria, Rome and Canterbury

（アッシリア、ロ マ、そしてカンタベリ ）” という一 の を、またIrish Recordにも “Authenticity of the Pentateuch（モ セ五 の信 性）”

を寄稿しました。彼はアヴェ マリアを 数の言 に翻 し、それはIllustrated Catholic

Missions により出版されました。また1895年には、ペルシャへの旅路に立ち寄ったコンスタンチノープルにおいて、The Levant

Herald へ“東方教会”について英とフランスによる期の寄稿をしています。1895年、彼はオルミエでフランスラザリストミッションに参加し、そのミッションでは史上初となるQala-La Shará

(真理の声)と呼ばれる口シリアの定期刊行物を行しました。また1897年には、オルミエ、そしてサルマスのユニエトカルデア派の二人の大司教から、東方カトリック教会の代表として、ペロ枢卿主催によるフランスのパライユール=モニアルで開かれた体大会へ派遣されました。もちろん、これは公式な招待によるものです。“神父ベンジャミン”によって朗読された文は体大会の年で出版され、その年度の“Le Pelirin”と呼ばれました。この文でカルデア派大司教(これが彼の公式な称号でした)はネストリウス派におけるカトリックの教育システムをき、オルミエにれるであろうロシア人司祭の出を予告しました。

1898年、神父ベンジャミンは再びペルシャに 来て来ました。彼は生まれ故郷のディガラ村に料の学校を 校しました。そしてその翌年、い に渡るユニエト大司教フダバシとラザリスト神父との の により分 の危 が生じていたサルマス 督管区の管理者として、教会 威により派遣されます。そして1900年の元旦、神父ベンジャミンは、サルマスの ジョジ大 堂の大会合の前で に残る最 の 教をしました。そこには多くの非カトリック アメリカ人などが来ていました。彼の 材は“新世 と新しい人 ”でした。彼はネストリウス派宣教 が、イスラ ム出 の前に福音を全アジアに 道した逸 を回想しました。彼によると、彼らはインド (特にマラバ 海岸) やタタ ル、中国やモンゴルに数々の事 を有しており、また福音をトルコ 、ウイグル 、その他の言 に翻 していました。そしてカトリックや、アメリカ人、そして英国国教会からの 道 と言え、アッシリア カルデア派国家の前期教育において かな好影 を残しただけで、ペルシャ、クルディスタン、そしてメソポタミアの中を する 宗派に分裂させたこと、また彼らの努力は最 的に凋落を迎える 命にあるという事 を述べました。彼は地元の人々に し、 外国の使 に依存せず自らの 脚で立ち上がることが出来るよう努力することにおいて、少女の 牲を うよう忠告しました。

。

アメリカ、英国国教会、フランス、ドイツ、そしてロシアによる五つの大模で虚的な宣教は、彼らの大学やメディア、そして裕福な宗教や事、大使らの支援により、10万人模のアッシリアカルデア派を端派であるネストリアンから彼ら自身の端宗派へと改宗させようともみました。そしてロシアの宣教が他を凌し、1915年にペルシャのアッシリア人と、当サルマスとオルミイエの平地にそれぞれの政府との武力争のために移住していたクルディスタンの山岳部族を追放しました。その果、彼の人々の半数は争によって死にえ、生き残った人々は故から逐されたのです。

きに渡り司祭の の中にあった大きな疑は、その最高潮を迎えようとしていました。「多岐に分裂し、信性の薄く、造され、腐した典を持つキリスト教は、神による真の宗教なのであるか？」1900年の夏、彼はディガラのある有名な水に接するブドウの中にある小さな邸宅に居し、一ヶ月に渡る礼と瞑想に耽り、 の原典を何度も何度もみ返しました。そしてこの重大局面は、オルミイエのユニエト大司教への公式な辞任状提出をもって焉を迎えることとなります。彼はモンシニョルトウマアウドウへ、放の理由を率直にえました。教会威による辞任撤回の全てのみは失にりました。神父ベンジャミンと彼の上位者とのに人的な口や突はありませんでした。それは全て、良心にわるであると捉えられたからです。

ダウド氏と呼ばれるようになった彼は、数ヶ月に渡りタブリズのベルギ人家たちのもとで、ペルシャ税の官としてきました。そのムハンマドアリミルザ皇太子への奉仕として翻教に就きました。1903年、彼は再び英国をれ、ユニテリアン派コミュニティに参加し、1904年には、英国海外ユニテリアン会によって自国民にしての教育役として派遣されました。ペルシャへの旅路、彼はコンスタンチノプルをれ、シャイフル=イスラムジャマルッディンエフェンディとその他のウラマたちとの数の面の末、イスラムを受け入れたのです。

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/852>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。